

# 多賀



春号

No.69

令和5年3月1日発行



古例大祭 — 隨身騎馬供奉 —

## 四月から九月の祭事暦

※新型コロナウイルス感染症の状況により、変更が生じる場合があります。

|    |                                                                                                                                          |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 四月 | ○神武天皇祭遥拝<br>四月 三日(月)<br>○御使殿大御供式<br>四月 九日(日)<br>○馬頭人大御供式<br>四月 十八日(火)<br>○宵宮祭<br>四月 二十一日(金)<br>●古例大祭<br>四月二十二日(土)                        |
| 五月 | ○後宴祭<br>四月 二十三日(日)<br>○昭和祭<br>四月 二十九日(土)<br>○喜寿薙寿祭<br>五月 十六日(火)<br>○米寿薙寿祭<br>五月 二十八日(日)                                                  |
| 六月 | ○御田植祭<br>六月 四日(日)<br>○崇敬会大祭<br>六月 二十五日(日)<br>○六月古例祭<br>六月 三十日(金)<br>○夏越大祓式<br>六月 三十日(金)<br>○金婚薙寿祭<br>七月 十七日(月)                           |
| 七月 | ○万灯祭<br>八月三・四・五日(木・金・土)                                                                                                                  |
| 八月 | ○九月古例祭<br>九月 九日(土)<br>○傘寿薙寿祭<br>九月 十四日(木)<br>○秋季皇霊祭遥拝<br>九月 二十三日(土)<br>○拔穂祭<br>九月 二十四日(日)<br>○池坊献華式<br>九月 二十七日(水)<br>○講社大祭<br>九月 二十八日(木) |
| 九月 | ○御日供祭<br>毎日午前七時より<br>○おついたち参り<br>元日を除く毎月一日の午前七時より<br>○月次祭<br>元日を除く毎月一日・十五日                                                               |
| 諸祭 |                                                                                                                                          |





## ご挨拶

宮司 片岡 秀和



## 歴史と伝統に根ざした生き方

令和に元号が改元されて早くも五年目を迎えました。少し平成の御代が遠のいたような感じがします。昨年には、四年に一度のサッカーのワールドカップで、日本チームが活躍し、日本中を熱狂の渦に巻き込みました。俄かサッカーファンも多かったと思いますが、強豪と言われるドイツやスペインを撃破した事は日本のサッカーが世界と対等に渡り合える事を示し、日本人として誇りに思います。

他にも数多くのニュースが有りましたが、メディアを大いに騒がせ、法を整備させたのは、所謂 宗教問題であり、故元安倍総理が奈良市で凶弾に倒れた事で、教団の不条理が世間の知る処となりました。

教団が求める寄付は異常なほど高額で、その家族が被る被害状況は社会問題にもなっています。そんな時、隣人から「宗教は怖いですね」などと言われて当惑しました。

確かに宗教は怖いかもしれません。世界各地で起こる数ある紛争の原因の一つに宗教間の対立がある事は周知の事実です。

宗教は人や自然の持つ力を超越した存在で、思想や観念に基づく教義や儀礼、行事を行うことで、人の日常生活を律するばかりでなく、人の生死さえ左右します。しかし、宗教が無ければ、生きる支えや祈りの場もなく独裁政権の中で綱紀紊乱風俗靡頹などという現象が起こりかねず、人々の心の荒廃から、社会秩序というものが失われる事になりかねません。

宗教とその教えは我々の精神の支えとしての存在であらねばならないと思います。

太古の遺跡には、数多くの祭祀物や壁画等に、人々の切実な祈りが見て取れます。

人による歴史が刻まれた頃より、まだまだ他の民族との交流がない時代から祈りや占いなど宗教的な行事が始まり、祈りを捧げる絶対的なものを神として、その神に対する敬仰から信仰が生まれ共同の社会が築かれてきました。

長い歴史の中で、教義や経典が生まれ教主がそれを説き、人々が生活する中で、秩序ある健全な社会が築かれてきたのです。悠久の時の中で、多くの宗教が生まれた事でしようが、悪戯にお金をつぎ込み、家庭が崩壊するほど貧困に陥らせるような教えが宗教と言えるのでしょうか。試練や淘汰を乗り越え、常識を逸しない健全に存在する宗教こそ人を救い護る本来の宗教だと思っています。

夙に日本の社会に於いては、社寺や夫々の家庭で自ずと神や仏に対し畏敬の念から社会の秩序を体得してきたのですが、名ばかりの狂信的な教団のマインドコントロールにより邪教の跳梁跋扈に気が付かず、その教えが生活の全てになり、我欲に満ちた教団の活動を許すことになってしまいました。

戦後の日本社会は、公共の場から宗教的な教育や関係を排斥したことで、本来の宗教との区別が出来なくなったのではないかと思います。

健全な共同社会を営む上で、普遍的な伝統と歴史を否定せず、太古より培われてきた心の支えとなる宗教を信仰する事で、清浄な生き方が出来るのではないかと思います。



# 古例大祭

四月二十二日、恒例の古例大祭が斎行されます。

このお祭りは鎌倉時代より連綿と続く当社の最重要儀であり、湖国の春を彩る多賀まつりとも称されています。本年のお祭りの主役である馬頭人には彦根市の中川哲氏が御使殿には地元多賀町の遠城温大氏がそれぞれ一月三日に差定めを受け大役をご奉仕されます。コロナ禍により規模を縮小してのお渡りが続いておりますが、今年は以前のように氏子中による神輿・鳳輦の巡行と騎馬約四十頭からなる総勢四百名近い大行列が、時代絵巻さながら多賀の町内を練り歩けることを願っております。



なかがわ さとし  
馬頭人 中川 哲 氏

昭和25年 3月24日 (72歳)

- ・住所 彦根市芹川町
- ・現職 ㈱昭和バルブ製作所 取締役会長



馬頭人の差符を受ける中川氏



えんじょう あつひろ  
御使殿 遠城 温大 氏

平成18年 8月12日 (16歳)

- ・住所 多賀町多賀
- ・八日市高校1年



御使殿の差符を受ける遠城氏

※令和5年3月1日現在

## 祈年祭 (豊年講春季大祭)

三月十七日、今年の豊作を祈る祈年祭が斎行されます。県内の豊年講員を代表して長浜市高月町の古保利地区大世話係、おとおひさし大音壽士氏が祈年使をご奉仕されます。

豊年講春季大祭祈年使を奉仕するにあたり

祈年使 おとおひさし  
大音 壽士



一月十六日の豊年講大世話係会におきまして、大世話係を引き受けて僅か三年ばかりの私が祈年使という大役を務める事となり只々恐縮しております。

父が永年、豊年講の大世話をさせて頂き、私も小さい頃より近江鉄道で父と共に多賀さんへよくお参りしていた記憶がございます。私の妻も生誕が多賀町で此度のお役には強いご縁を感じております。教員退職後は地元神社の総代や自治会の役員などを務め、地域社会の一隅を照らすお手伝いが出来ればと思っております。田んぼは一・五ヘクタール程ありますが、すべて村の農業の担い手の方にお任せして、私は一〇アール程の畑で野菜作りをしております。

祈年祭当日は古保利地区の世話係と共に恙なくお祭りをご奉仕申し上げ、秋の五穀豊穡へと祈りを繋げたいと思っております。





# 多賀の杜と

## 四十年

### 第2回

宮大工 西澤 政男

#### 一、多賀大社平成の大造営

平成の大造営は主として昭和初期造営の壮麗な社殿群の維持保全修理、神楽殿改築、祈禱者待合所（控殿）、神符授与所等の改築を三期に分けて神社機能を維持しながら平成十四年より平成十九年に掛けて行われました。

#### 第一期工事は社寺専門の設計事務所の設計監理のもと平成十四年六月から十五年十月迄の工期で絵馬



一新された神符授与所・祈禱者控殿

殿を仮設授与所に改造することから始まり、旧来の神符授与所、祈禱者控室、舞女室、当直室、作業室、御輿庫、便所等を経て替える大規模工事であった為、当社以外の崇敬建築会社様にもご協力頂ける様に工種毎に分離発注形式を取り、当社は仮設、石、木、屋根、木製建具、内装などの工種を担当しました。完了後は参拝者の人の流れも順調になり、快適にお参り頂ける様になりました。



表門・築地堀



新しい神楽殿



幣殿



拝殿・東西翼廊

第二期工事は平成十五年七月から十七年十二月迄で、神楽殿改築を中心事業として、拝殿及び東西廻廊、表門及び左右築地堀の屋根葺替や各所修理、幣殿及び祝詞舎、同東西翼廻廊の屋根葺替及び修理、表門脇の愛宕、秋葉神社改築、能舞殿控室改築など各所修理も含み、多岐に亘る維持保全工事でした。

#### 第三期工事は平成十七年八月から十九年十月迄、

手水舎、みくじ舎、制札舎の修理と屋根葺替、本殿屋根葺替、箱棟、鬼、千木勝男木取替、周囲築地堀を廻廊に改造、屋根葺替、本殿廻り透塀及び北唐門屋根葺替、潔斎所及び儀式殿改修模様替を行い、平成の大造営は新しい生命を注入し工事は全て完結した次第です。

また、この造営期間中には、文化財保護法の適用を受け多賀大社の荘厳を末永く維持する為に、この社殿群（十一棟）を多賀町より、町指定文化財に指定して頂いた事は文化財を扱う私共にとりましても大変有難い事でありました。

今回の大造営で一番悩んだのは、エアコンや床暖房を用いる祈禱控室や廊下の床及びカウンターを無垢材で施工することでした。乾湿による伸縮が少ないと言われていた（針葉樹は多い）タイ国を原産とする果林を用いて現地乾燥、加工をして貰い、下駄箱迄も同材で調べて頂いた事、今では成功したと思っています。

造営終了後も平成二十年には日向神社本殿修理、二十二年には年神社、竈神社、二十三年は子安神社修理改築等につき、二十四年は応接室貴賓室等屋根葺替、二十五年は奥書院（県文化財）潔斎所、二十六年は多賀講総門、二十八年は末社三宮神社、聖神社の各屋根葺替、三十年御輿庫と屋根葺替と工事は続き、多賀大社へは日々足を運ばせて頂いています。

この様に数多の工事に携わる事により、工匠としても多くの示唆を得て、先達の偉大さに改めて気付かされました。





本殿



儀式殿エントランス



手水舎



本殿北・東・西の築地塀廻廊・透塀・唐門

## 二、社寺建築に求められるもの

神仏を崇敬する時、人々はお祀りしてある建築物（神社・寺院）も含めて信仰の対象と考えることが多い。即ち、建築そのものにも崇敬の対象たり得る品格や荘厳性が求められます。

優れた建築は世紀を超えて人々の尊崇を集め、腐朽破損しても、後世の人々に素晴らしいが故に取壊しでなく修理延命して貰える力（生命力）を宿して居ると言えます。

文化財に指定されている建築物は何度も修理延命して貰い、今日迄伝世して来た「生命力の強い建築」の実証例です。

私達はこれらの修理工事を通じ、生命力の源を学習し、新しい造形に反映できる様に日々の精進努力は尽きることはありません。

では、その生命力の源であり、人々の崇敬を集め得る素晴らしい形とは建築の何処にあるのか。先輩から聞いた大工の戯れ言に

「大工と雀は軒で鳴く」

「カカと普請は遠目に見よ」

「二格好、二材料、三仕事」とか言われます。

いずれも屋根の姿、形、プロポーションのことを言っている。古来先達もこれに心血を注いで来ました。理想的な建築のプロポーションや各部の寸法、木材の太さなどを比率化し、体系化したものを「木割」又は「木割法」と言い、書物として遺してくれています。また、墨壺や指矩を用いて木材に直接に勾配に関わる墨付けをする時は、三角法や幾何学を用いた「規矩術」という技術を確立伝承し、これも書物で遺してくれて居ます。

これらが大工は必須知識として必死に勉強しますが、これがまた超難解で、なかなか覚えられないのに、更に「美しくて、丈夫で長持ちし、使い易く、時代に淘汰されても生き残れる建築」を求める為、我々大工は死ぬまで勉強と言われているとおります。



鬼板の加工

## おわりに

神社や寺院の建築が備えるべき、時代を超えて受け継がれ、生き残れる「日本人の感性や美意識に適合した形」とはどんなものか自分なりに考えました。

### 一、具備する形

水平、垂直、対称性、均衡ある安定感、デザインの成熟性、スマートで力強い躍動感、品と格、荘厳性、淡白な自然体、重厚で軽快、清浄で緊張感

### 二、排除すべきこと

奇抜なアイデアや稚拙なデザイン、未熟な思い付きや創作、個性や独創性、作る人の自己主張、不浄、珍妙、滑稽、軽薄、下品、鈍重、沈滞、作意的、不自然な形

これらのことを踏まえて、長年の淘汰を経た大工技術は伝統文化として今に継承され、現代の物の豊かさ、便利さや、機能性等の物質文明全盛の時に、日本人の精神を支える日本文化の中で輝きを放っています。

これからも若い人達に「反り」「増し」「隅延び」など先人が遺してくれた「美意識を表現する手法」を伝え、本物の日本文化を伝えていくことを目標にしようと思います。

### 西澤 政男（にしざわ まさお）

昭和十九年生まれ

- ・(株)西澤工務店 代表取締役
- ・一級建築士・二級技能士（大工）
- ・ユネスコ「世界無形文化遺産」登録
- 伝統建築工匠の会 副会長

※多賀大社の社殿に関わる維持・管理をお願いしております。  
(株)西澤工務店 代表取締役 西澤政男様に社報への寄稿を依頼し、二回にわたりご紹介いたしました。



# 節分祭

福は内!  
鬼は外!

二月三日、節分祭が斎行されました。  
本年も感染対策を講じ、神職・還暦奉仕者による祭祀と厄払い神事を執り行いました。  
ご奉仕のご縁を以て節分会員になられた一四一名の皆様をご紹介します。

奉仕者ご芳名（順不同・敬称略）

|       |       |        |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ◆愛荘町  | 久保田敬司 | 久保田美乃里 | ◆近江八幡市 | 徳田 為宏 | 徳田 純子 | 岡田 充弘 | 西川 浩司 | 瀧口喜三男 | 瀧口みき枝 | 岡田 正治 | 松浦 清隆 | ◆大津市  | 松本 勉  | ◆草津市  | 中嶋 辰也 | 本村 隆行 | 本村 都美 | 日柳 皓之 | ◆甲賀市  | 井用 隆弘 | 藤田 郷史 |       |       |
| 山崎 敏史 | 木下 浩幸 | ◆甲良町   | 田中 数人  | ◆多賀町  | 西村 誠  | 吉田 光浩 | 吉田 早苗 | 三木 治夫 | 奥川 英世 | 堀 常一  | ◆豊郷町  | 堀 常一  | ◆長浜市  | 村崎 一郎 | 蒲生 仙治 | 田中 一徳 | 中村 隆裕 | 野本 雅史 | 野本伊久夫 | 河瀬 清之 | 中嶋 秀行 | 宮村 昭男 |       |
| 高山 喜信 | 小倉 孝二 | 高田 謙二  | 小川 佳伸  | 小川 明美 | 西堀 正一 | 西堀 誠一 | 宮尾 英明 | 荒田 栄作 | 奥長 代司 | 中川孫三郎 | 高山 彦男 | 伏木 篤  | 大久保信也 | 糟井 淳史 | 清水 市也 | 寺本 義信 | 中川 茂樹 | 岩崎 俊裕 | 田中 茂樹 | 田中智佐人 | 大橋 慎一 | 梅本 浩幸 | 北川 孝敏 |
| 岡本 正昭 | 中島 嘉啓 | 富岡 健   | 土田 康明  | 中川 京之 | 饗場 伸一 | 梅本 政人 | 内藤 真二 | 中井 清満 | 前田 直樹 | 宮川 左衛 | 宮島 浩一 | 矢守 慶光 | 角川 宗弘 | 伊藤 克美 | 植松 清晴 | 加藤 亮  | 中川 亨一 | 岡島 義孝 | 宮崎 将利 | 民徳 悟  | 片桐 忠一 | 齊田 益男 | 杉野 吉成 |
| 杉野 美香 | 片桐 正治 | 佐倉 幸男  | 森 吉和   | 大川 一利 | ◆東近江市 | 福山 幹雄 | 小西 洋史 | 鈴木 与市 | 中川 進  | 下川 雅弘 | 木村 一博 | 巽 康弘  | 巽 憲子  | 西山 千秋 | 奥出 里美 | 宮地 秀和 | 宮地 妃美 | 大橋 史和 | 林 重信  | 西崎 彰  | 佐野正一郎 | 辰巳 勝則 |       |
| 田付 嘉弘 | 河崎 義隆 | 杉田 浩   | 里田 起明  | 豊田 浩一 | 川原崎雅明 | 荻野 藤典 | 荻野 博美 | 中嶋 聡史 | 外川 靖子 | 川副 眞紀 | ◆彦根市  | 川下 強志 | 吉川 英二 | 小川 雅章 | 小川 孝子 | 田付 利之 | 大橋 伸康 | 山本 陽一 | 山本 弘美 | 菊川 太嗣 |       |       |       |
| 若林 進  | ◆日野町  | 持田 和徳  | 山口 明一  | 久保田幸雄 | 仲谷 邦雄 | 中嶋 庄一 | 福本 修一 | ◆米原市  | 廣田 勝徳 | 堀江かおり | ◆栗東市  | 中村 忠夫 | 西田 良一 | 田中 康人 | 田中 啓久 | ◆竜王町  | 竹山 勉  | 澤井 一雄 | 西村三代司 |       |       |       |       |

◆御礼

福豆奉納

神崎 治

## 御礼

福豆奉納  
鬼神楽奉納  
神崎 治  
因原神楽団





## 子安台へ奉納

お子様が生まれて初めてお宮さんにお参りする事を「初宮詣り」と言いますが、当社ではご祈禱の際、この子安台にお子様を寝かせ、お鈴のお清めをお受け頂きます。現在の子安台は経年による傷みも見られる事から、この度 彦根市在住 西山繊維(株)代表取締役社長 西山憲和様より新たに子安台のご奉納を頂きました。西山様のご篤志に感謝申し上げますと共に益々のご健勝をお祈り申し上げます。



## 手すり設置

神社建築には階段が多く、当社におきましても高齢者のご祈禱の際には階段が何か所もあり、ご不便をおかけしております。この度、少しでも階段の上り下りの助けになればと手すりを設置致しました。まだまだ改善すべき点は沢山ありますが、高齢者だけではなく全ての参拝者に対応出来る、ユニバーサルな環境づくりを目指して参ります。



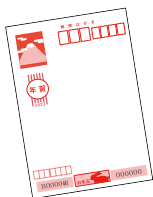
## 絵画へ奉納

この度 岡島春美氏より絵画のご奉納を頂きました。岡島氏は平成十六年にも御祈禱控殿竣工を記念して絵画のご奉納を頂いておりますが、この度は一〇〇号の大作をご奉納頂きました。



## 第45回多賀大社「賀状展」

毎年多賀大社では一月一日より一月五日まで賀状展を開催しております。本年も県内各校よりご応募頂いた六六五〇点の中から二二〇四点を展示致しました。



### 最優秀賞

- 大滝たきのみやこども園 富尾 桜奈
- 米原小学校 竹中 堂真
- 和邇小学校 田中進一郎
- 八幡小学校 松岡 依吹
- 多賀中学校 小島 多喜

(敬称略)

## 新規授与品「仕事守」

令和五年一月一日より、新しく「仕事守」の授与を開始いたしました。

仕事に関わる様々な悩みの解消や良い仕事に恵まれるなど、仕事に関わる願い事が叶いますよう、ご祈願を込めたお守りです。

皆様のお願い事が花開きますよう、境内に咲く「ささゆり」(多賀町の花)をあしらった奉製いたしました。



初穂料 一〇〇〇円



## 隠れた桜の名所

このしだれ桜は当社の境外末社である井伊神社（彦根市古沢町）の境内にあります。幹周りは2mを超え、彦根市指定保存樹にも指定されているこの桜は彦根藩第十三代当主の井伊直弼公お手植えとも伝わる古桜。普段はひっそりとしている境内ですが桜の時期は華やかな明るさで包まれます。

毎年四月上旬頃から見頃を迎えます。

多賀大社へお参りの後、少し足を延ばしてみてもいかがでしょうか。



## 春の特別展「多賀大社参詣曼荼羅」のご案内

「参詣曼荼羅」とは、参拝と信仰を促す為に描かれた絵図で、当社では坊人と呼ばれる社僧達が全国に多賀大社を広める際に、この「まんだら」を携行し当社の由緒やご神徳を説明していたと言われています。

「まんだら」には当時の社頭の風景が克明に描かれています。一方お渡りの様子、能や巫女の神楽、馬を引く人、門前町の賑わう様子など、見る人にご利益のありがたさや参拝の意欲を募らせるような様子も多く描かれています。

この「参詣曼荼羅」を眺めていると当時の様子を窺い知ることが出来、さながらタイムスリップしている感に陥ります。

期 間 令和五年五月三日～五日

午前九時～午後四時

拝観料 五〇〇円（庭園拝観含む）



## 金婚筵寿祭のご案内

当社では結婚五十年を迎えられたご夫婦を対象に金婚筵寿祭を行っております。本年は七月十七日（月）に執り行います。

参列ご希望の方には案内状をお送りしますのでご連絡下さい。

本年は昭和四十九年もしくは昭和四十八年にご結婚されたご夫婦が対象となります。

奥さまへの労い、旦那さまへの感謝、そして結婚六十年目の「ダイヤモンド婚」七十年目の「プラチナ婚」に向けて健康でお過ごし頂けるよう是非ご参加下さい。

参加費 ご夫婦で二万円

（祈祷料・記念品・お食事）



## 編集後記

昨年10月21日より

公開されました映画「線は、僕を描く」を皆さんはご覧になりましたか？ 実はこの映画のロケ地として

当社が多く映っております。右の写真は映画の中で描かれた水墨画のレプリカを展示した時の様子です。最近若者を中心に聖地巡礼と呼ばれる映画や小説などの舞台、その作品と縁（ゆかり）のある場所を巡る事が流行っており、当社にも映画公開より多くの方が訪れました。巡礼者の多くは神社にお参りすることが目的でないのが寂しい気もしますが、今回の巡礼を機会に少しでも神社に触れ、興味を持つきっかけになればと聖地を巡る若者たちを見守っております。



# 多賀大社

〒522-0341 滋賀県犬上郡多賀町多賀 604  
tel.0749-48-1101 fax.0749-48-1105  
✉ info@tagataisya.or.jp

多賀大社

検索

<http://www.tagataisya.or.jp>



@tagataisya.official



@tagataisya